

### 現地研究の記録 : 3. 大峯山・沼田盆地

漆原, 和子

---

(出版者 / Publisher)

法政大学地理学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

JOURNAL of THE GEOGRAPHICAL SOCIETY OF HOSEI UNIVERSITY / 法政地理

(巻 / Volume)

8

(開始ページ / Start Page)

79

(終了ページ / End Page)

79

(発行年 / Year)

1967-03-21

### 3. 大峯山・沼田盆地

指導 多田文男教授

昭和41年12月25、26日、大峯山block stream, 沼田盆地の現地研究が行われた。従来、寒冷気候に結びつけて考えられていたblock streamについての観察と、沼田盆地の成因について段丘および柵下トンネルの二子、赤城の熔岩等から検討を加える事が主であつた。参加学生は法政12名、その他駒沢大院生2名、通教生も参加して行われた。単なる「説明案内」には終らず、現地討論という形式をとつたために、地形専攻の者にとつては、きわめて面白い2日間であつた。

大学院の現地研究全般についての私の感想としては、見学旅行的巡検を行い単位を与えるという制度にいささか疑問を持つている。専門分野をきわめる一手段としての巡検であるならば、専攻ごとに指導教員の調査に同行させていただくとかした方がより密度の大きなフィールドワークが出来るのではなからうか。

「2単位」という制度のために人文専攻の院生までが自然のごく専門的な現地研究にまで参加しなければならなかつたり、又その逆があつたりするのは、調査研究としての本来の姿を失つてゐると考える。

大学院修士課程2年 漆原 和子

## 海外旅行特集によせて

### 1. 海外旅行ブーム

最近の海外旅行ブームはものすごいほどである。外務省旅券記録課の発表では昭和40年15.4万、41年21.1万名と増加する一方であり、昭和27年以降41年まで累計は99.7万となつた。このような現象は海外渡航の自由化とともに始まり、この2年間は他の目的をおさえて観光目的が1位となつている。団体旅行のなかには地理研究者が自主的に計画・実行されたものがぼつぼつ見え、大きな成果をあげていることは喜ばしいことである。

わが法政地理学会々員も、40~41年2カ年間に種々の海外旅行に参加している者が数十名いる。その結果、今回の「法政地理」の特集が企画されたということになる。ここに集録し得たのはその一部にすぎないが、他の会員諸氏も、海外旅行されたならば御知らせいただきたい。団体旅行を利用した諸君が多いが、皆つけこう安い費用でやつてきているということを知りて。

「地理学者、みて来たよなウソを云い」という川柳もほんとうだが、逆にちよつとかけあるい